

3. 京都市大原野の杜

障害者支援施設【生活介護事業・施設入所支援・短期入所事業】 特定相談支援事業所

(1) 総括

これまでの数年間主任が欠員の体制で運営を続けてきたが、令和6年度は主任が3名配置され副施設長以下支援系の体制が整った。利用者の生活の担当と日中活動の担当とを役割分担することで、職員の業務も統制され施設全体の組織としての体制を整備することができた。

職員の業務軽減として、昨年度は特殊サワー浴槽『araeru（アラエル）』を導入したが、今年度は、天井走行型の移乗リフトを女性利用者の居室1室に設置した。これは職員の腰痛予防や負担軽減のために以前からの懸案事項であったがなかなか進捗していなかった。そこで製作者から提案があり、機器導入についての勉強会とデモ機の使用を実施したことにより、職員の負担軽減だけでなく利用者の安全確保のためにも有効であることの理解が進み、導入することができた。少しの力で移乗が可能となり、職員だけでなく利用者にも好評である。

今年度は、女性職員3名が妊娠に伴う業務軽減が必要となり夜勤をする職員の確保が困難となった。10月より夜勤専従の派遣職員の採用と非常勤職員の夜勤を増やすことで対応している。3月に非常勤職員の求人チラシを作成し業者を通じて近隣に配布したところ、問い合わせや応募があり数名を雇用する予定である。職員の出産や育児関わる業務制限については、代替職員の確保や業務軽減が必要であり、それに伴って提供するサービスを低下させないことが大きな課題である。

利用者の状況としては、入所利用者は49名でスタートし、7月に男性利用者1名を迎え満員となったが、同月昨年度より入院中であった女性利用者1名が死去されたので、49名のまま経過した。そして2月には女性利用者1名を新たに迎えたが、同月女性利用者が1名入院され、嚥下状態が悪いことから施設に戻ることは困難となり、介護保険の施設に移るために退所された。短期入所は、今年度積極的に新規利用者を受け入れたため稼働率が上がった。しかし、6月と2月に利用者のコロナウイルスの感染があったため、利用を控えていただいたので稼働率は思ったほどの上昇は見られなかった。計画相談については、施設長が相談支援専門員を兼務しており稼働率が上がらないため、一般職員が養成研修を受講することにより相談支援専門員を増員する必要がある。

次年度も引き続き、職員の自主的で積極的な業務遂行と安全で安心できる良い支援を提供していきたい。

(2) 職員体制（令和7年3月末現在）

施設長(管理者)1名、副施設長(サービス管理責任者)1名、事務職員2名、支援職員37名(常勤換算数31.5名)、看護師3名(常勤換算2.2名)、管理栄養士1名、相談支援専門員2名(兼務)、洗濯業務(非常勤)2名、嘱託医師2名(内科1名、精神科1名)

＊給食調理は業務委託

(3) 利用者の状況

①在籍人数・利用実績

1) 施設入所支援：定員 50 名・現員 49 名，年間利用率 96.0%（R 5 年度：94.4%）

		4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
男 性	在籍者	25	25	25	26	26	26	26	26	26	26	26	26	—
	利用日数	743	763	742	785	795	774	802	774	792	803	716	800	9289
女 性	在籍者	24	24	24	23	23	23	23	23	23	23	23	23	—
	利用日数	690	711	689	704	693	681	712	678	700	682	620	683	8243
合 計	在籍者	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	—
	利用日数	1433	1474	1431	1489	1488	1455	1514	1452	1492	1485	1336	1483	17532
	利用率%	95.5	95.1	95.4	96.0	96.0	97.0	97.6	96.8	96.2	95.8	95.4	95.6	96.0

2) 生活介護：定員 50 名・現員 49 名，年間利用率 92.1%（R 5 年度：91.1%）

		4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
男 性	在籍者	25	25	25	26	26	26	26	26	26	26	26	26	—
	利用日数	517	542	519	556	568	539	564	540	567	565	490	564	6531
女 性	在籍者	24	24	24	23	23	23	23	23	23	23	23	23	—
	利用日数	487	513	492	513	500	487	511	483	513	488	434	485	5906
合 計	在籍者	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	—
	利用日数	1004	1055	1011	1069	1068	1026	1075	1023	1080	1053	924	1049	12437
	利用率%	91.3	91.7	91.9	93.0	92.9	93.3	93.5	93.0	93.9	91.6	88.0	91.2	92.1

②年齢・男女別人数：男性最高齢 76 歳・女性最高齢 82 歳

年齢	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～79	80以上	合計	平均年齢
男性	0	0	9	9	4	4	0	26	56.0
女性	0	0	7	5	4	5	2	23	60.0
合計	0	0	16	14	8	9	2	49	57.2

③ 障害支援区分別人数

	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	6 区分	合計	平均区分
男性	0	0	0	3	4	19	25	5.6
女性	0	0	0	1	3	19	23	5.8
合計	0	0	0	4	7	38	49	5.7

④ 利用者の動向

新規入所 男性 1 名、女性 1 名

退 所 女性 2 名（1 名介護保険施設へ移行のため、1 名死亡のため）

入 院 ・令和 5 年度 2 月より女性利用者 1 名脳出血のため入院継続、6 月死去

・5 月～6 月男性利用者 1 名急性肺炎のため入院

・7 月女性利用者 1 名排尿障害のため入院

・8 月～9 月女性利用者排尿障害及び肺炎のため入院

- ・12月女性利用者1名頭部打撲により入院、嚥下障害のため1月まで入院継続
- ・3月女性利用者1名誤嚥性肺炎のため入院
- ・6月、8月、10月、3月女性利用者1名透析用シャント更新手術のため入院
また11月透析時に炎症反応が確認され入院

3) 短期入所事業利用実績：定員5名、稼働率66.1%（R5年度：57.2%）

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
男性	利用人数	12	10	6	14	12	13	13	16	14	15	9	10	144
	利用日数	49	47	25	66	55	59	61	67	57	57	30	61	634
女性	利用人数	10	10	8	10	11	12	15	17	13	11	10	11	138
	利用日数	35	54	27	43	56	53	63	60	48	46	36	52	461
合計	利用人数	20	18	19	19	18	23	21	22	20	19	21	21	241
	利用日数	84	101	52	109	111	112	124	127	105	103	66	113	1207
計	稼働率%	56.0	65.2	34.7	70.3	71.6	74.7	80.0	84.7	67.7	66.5	47.1	72.9	66.1

○京都市依頼「あんしん生活緊急サポート事業(障害者緊急短期入所事業)」の
緊急利用枠を年間13週担当：利用者のべ2名、9泊の利用があった。

内1名は、虐待対応ケース（経済的虐待）

4) 日中一時支援事業利用実績 延べ16名（R5年度：延べ13名）

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
男性	利用人数	0	2	3	1	1	2	1	1	2	2	0	0	15
	利用日数	0	4	5	1	2	4	2	5	7	6	0	0	36
女性	利用人数	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
	利用日数	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
合計	利用人数	0	2	3	1	1	2	1	2	2	2	0	0	16
	利用日数	0	4	5	1	2	4	2	6	7	6	0	0	37

(4) 重点方針及び事業内容 取組結果

① 重点方針

ア 加齢に伴って変化する利用者の生活を支える。

杜の利用者は半数が55歳以上となっており、身体や認知機能の低下や健康状態に変化が見られる方が増えてきた。特に足腰の筋力の低下によるふらつきや躓きは多く見られ、行動される際には職員の見守りや手を添えることができるよう、日常的に観察し支援した。夜間の眠りが浅かったり、日中でも焦燥感や不安感が高かったりする様子も見受けられ、様々な状態の利用者に対して、支援と医務が情報交換や相談をしながらその方に応じた快適なくらしとなるよう支援した。また運動量の変化や嚥下機能の低下による食事形態の変更から体重が大きく変わる利用者もあり、管理栄養士とも相談し調整を行った。

イ 利用者が社会の一員であることを意識して年齢や障害特性に合わせた日中活動支援を提供する。

今年度、グループでの日帰り旅行を計画し実施するために、昨年度から経験の浅い職員

にも近隣の商業施設などへ出かけることで施設の外での支援を経験してもらい備えていた。まず5月に第1班が滋賀県の雄琴温泉に出かけ、7月にも第2班が出かける事にしてしたが、支援職員の健康状態による理由で体制がとれず、グループでの日帰り旅行は実施困難となり、昨年度同様、近隣への外出に留まった。

日中活動のプログラムについては、2F利用者が中心の紙すき班がオリジナルTシャツの作製に取り組んだ。3F利用者を中心としためざめ班ではベランダ歩行やドライブ、カラオケに取り組んだ。歌や音楽が好きな利用者が多くカラオケはいつも好評で、演歌や昭和のアイドルの歌で盛り上がった。

ウ 働きやすい職場環境を整備し事業を円滑に遂行できるよう組織を運営する。

主任が3名配置され生活と日中活動とに役割分担したことにより、主任を中心として業務を進めることができ組織としての形が整った。支援やその他の業務に関する相談や話し合いも職員同士で適宜行うことができ、業務遂行のスピード感も高まった。

設備としては、身体介助が必要な利用者の居室に天井走行式の移乗リフトを設置したが、導入にあたって製作者による移乗リフトについての研修を実施し、介助者の負担が軽減されるだけでなく、利用者にとって不安をやわらげ身体の緊張をほぐして快適な移乗となる事を学ぶ機会を設け、実際にデモ機を使用することで職員の理解が進みスムーズに導入することができた。実際に職員の肉体的な負担は軽減し、利用者も表情や身体が緊張することなく快適な様子である。

エ 各事業の利用者定員を保持し経営の安定を図る。

入所利用者は49名でスタートし、7月に男性利用者1名を迎えたが同月入院中であった女性利用者1名の死去により49名のまま経過した。そして2月には女性利用者1名を新たに迎えたが同月最も高齢であった女性利用者が入院され、嚥下状態の悪化により施設に返ることが困難となり退所となった。現在1名欠員であるため、新たな利用者を迎える準備を整えていく予定である。

短期入所利用者については、新規の受入れを積極的に行い登録利用者数が増加した。しかしながら稼働率があまり上がらなかったのは、コロナ感染症が発生した際に利用を控えていただいたことが原因である。

オ 地域社協や近隣の学校や施設との連携を深め、地域貢献に努める。

例年行っている地域の小学校2校との交流学习を継続して行った。年間を通してそれぞれ5回実施することができた。2月に実施した最終回は施設に来ていただいて紙漉をしたが、施設内でコロナ感染があったため利用者は参加せず、職員のみ参加となった。また、2月には大原野社協主催の「くらしの講演会」が杜の会議室で開催され、西京都病院の理学療法士の方から健康寿命を延ばすための話を聞いた。利用者の生活にも参考になる内容であった。地域の方々は約40名が参加され、自主製品を紹介しお土産として渡すことができた。初めて来たという方も数名おられ、施設の存在や利用者の暮らしを知っていただく機会となった。希望された方には施設内の見学もしていただいた。

② 事業内容

ア 施設入所支援

利用者の加齢に伴う身体機能や健康状態の変化に対応するために、日常支援の方法を職員間で最確認し、医務や管理栄養士とも情報共有してより良い支援方法に変更し

た。年齢を重ね歩行機能の低下が見られる利用者が増えており、歩行中に躓いたり他の利用者との接触によって転倒したりするケースが増えた。また毎日の服装や口腔ケア、整容にも気を配るとともに、利用者の不調を早期に発見できるよう注意を払って支援を行った。施設の建物の特性上、空気の乾燥が酷いため利用者の肌の保湿は欠かせない状況である。その掻き傷から蜂窩織炎を発症するケースも見られた。

イ 生活介護

2階の利用者を中心とした紙すき班では、新たな自主製品としてオリジナルTシャツの作製に取り組んだ。デザイン画を描いたりTシャツにプリントしたりと利用者を楽しんで取り組むことができるように使う道具を工夫した。でき上ったTシャツはイベント等で販売し、制作意欲に繋げることができた。

ケナフの栽培を通じて行う近隣小学校との交流学习においては、令和5年度に厳しい暑さによってケナフの育成不良が著しかったため、日照りに対応するための用具を使ったり、畑に植えるだけでなく施設の敷地においても苗を育てたりして非常事態に備えた。年間を通してそれぞれ5回実施することができたが、2月の最終回は施設内でコロナ感染があったため利用者は参加せず、職員のみ参加となった。

恒例となっている季節ごとの行事は滞りなく開催することができた。それぞれ準備から当日の開催まで、昨年度よりも一層、職員と利用者がともに楽しむ姿が見られた。

ウ 短期入所事業

新規利用者の受入れを積極的に実施した。ショートステイ事業を縮小された事業所があり、改めて事業所を探される方が増加したことも利用が増えた原因の1つであると思われる。また、ご家族のレスパイトケアとしての利用に対しては、急な利用にも可能な限り対応し、地域資源としての役割を果たすことができた。1月以降は、女性職員2名が産休に入り支援体制が希薄となることから、週末の女性の利用を縮小している。

エ 特定相談支援事業所

入所利用者を対象として支給決定時のサービス等利用計画案を作成した。現在は携わることのできる職員が少ないため、今後は一般職員が相談支援従事者研修を受講し相談支援専門員を増員しなければならない。

オ 虐待防止の取り組み

セルフチェックを実施し、自らの支援や行動の振り返りを行った。また、その結果について虐待防止委員会で協議し「適切な支援」について学習した。「スピーチロック」について動画を用いての研修も実施した。

(5) 情報

① 施設からの情報発信

「大原野の杜通信」を年2回発行した。法人ホームページ内のブログ掲載は準備不足のため活用できなかった。

② 苦情や要望の把握

ご家族や後見人の面会や帰宅を随時受付けており、面会に来られた際や帰宅の送迎時に短時間ではあるがご家族とお話しし、意見や要望を聴く機会としている。直接会う機

会のないご家族には定期的に利用者の様子を伝えご家族の近況をうかがうために連絡を取り利用者の生活について相談したり、意見や要望を聴かせていただいたりした。いただいた意見や要望については迅速に職員間で共有し改善に努めた。3月には家族懇談会を実施し、個別支援計画についての意見や要望を聴かせていただいた。また利用者満足度アンケートも実施した。

③ リスクへの対応

月1回のリスクマネジメント委員会において、インシデントレポートの集約し分析を行いその結果を職員室に掲示して周知徹底し、アクシデントの発生防止に努めた。また事故発生時においては迅速に対応し、毎日の日誌に記載して職員全員へ周知するようにした。

(6) 育成

① 実習やボランティアの受け入れ

長年実施していなかった社会福祉士実習の受け入れを実施した。社会福祉士実習のカリキュラムが変更されたこともあり、新たに実習プログラムの作成及び職員向けの実習生対応マニュアルを作成した。他事業所の見学も組み入れ、法人のスケールメリットを活かした実習を提供した。また、保育士の専門学校と大学の幼児教育を学ぶ学生の実習も例年通り受け入れた。

② 職員育成

研修委員会が中心となり月1回勉強会を開催した。職員が講師も担う介助技術や緊急時のロールプレイ等のほか京都市リハビリテーションセンターの出前講座を活用して介助技術や嚥下機能について学んだ。また「利用者主体」というテーマで職員同士意見交換をして理解を深めた。その他、感染症予防研修や災害時の食事調理についての研修も行い非常時に備えた。

(7) 地域との交流・連携

① 大原野社会福祉協議会に参画し地域の行事に出店した。社協主催の講演会の会場として施設の会議室を貸出した。「運動から期待する効果～健康寿命をのばすには～」をテーマに、西京都病院の理学療法士による講演があった。職員が地域住民とともに学習した。

② ケナフ栽培をとおして近隣の大原野小学校及び上里小学校と交流した。大原野小学校との交流学习は大原野地区民生児童協議会と協力して実施した。

(8) 施設整備

① 施設整備

ア 大型布団乾燥機の買換え

イ 利用者用ソファチェア（グラビティチェア）の買換え

ウ 非常時用プロパンガスとコンロの設置および物資用倉庫の設置

エ 天井走行式移乗リフトの設置

オ 音楽療法で使用する楽器・機器の買換え

② 施設設備の改修及び修繕

ア エレベーター停電管制バッテリー等改修

イ 玄関内側自動ドアの改修

ウ エレベーター扉故障による修繕及び部品交換（２基）

③ 厨房内機器の整備

ア スチームコンベクションの修繕

イ その他 経年劣化による機器の修繕および食器、鍋類の買換え

④ その他

屋上の防水加工工事および避難用屋外階段の改修については、京都市に要望済み。

ともに令和８年度以降に実施するとの回答あり。

1. 両親	2. 兄弟	3. 親族	4. 後見人	5. その他	合計	回収率
10	10	2	12	0	34	70%

以下の各項目について、あなたの気持ちに最も近いところに○をつけてください「わからない」「該当しない」場合は、無回答で結構です

■支援サービスの提供について

	はい	どちらかと 言えばはい	どちらかと 言えばいいえ	いいえ	無回答
1. 支援プログラムや支援計画は、利用者やご家族のご希望に添っていますか	25	8	0	0	0
2. 日中活動や余暇支援について、ご希望に添っていますか	22	7	0	0	5
3. 個別的な活動や外出等の機会は適切に提供されていますか	18	9	0	0	7
4. 個別支援計画や生活の様子について、十分な説明や情報提供がありますか	24	7	0	0	3
5. 医療面（検診・通院・服薬・他医療的ケア等）や緊急時の対応などは適切に行われていますか	28	6	0	0	0
6. 給食・食事は、健康や食事の楽しみに配慮し、適切に提供されていますか。	28	4	0	0	2

■スタッフのマナーや仕事のしかたについて

	はい	どちらかと 言えばはい	どちらかと 言えばいいえ	いいえ	無回答
7. 職員の言葉使いや態度で、嫌な思いをされたことはありますか	2	0	2	30	0
8. 職員の服装やみだしなみで、嫌な思いをされたことはありますか	2	0	0	31	1
9. 職員は、利用者ご本人やご家族の考え方やしてほしいことを大切にしていますか	21	7	1	3	1
10. 職員は指図するような言いかたをしていますか	0	0	2	26	6
11. 職員は、利用者ご本人やご家族の話を親身になって聞いていますか	20	3	3	3	5
12. 職員は依頼されたことを「時間がなくてできない」と言うことは、ありますか	1	0	1	32	0
13. 職員は、訪問時や電話対応等で、長時間お待たせすることは、ありますか	1	0	0	32	1

■建物や設備について

	はい	どちらかと 言えばはい	どちらかと 言えばいいえ	いいえ	無回答
14. 居室は、掃除や整理が行き届いていますか	17	2	0	0	15
15. 食堂やデイルーム、トイレなど共有部分の掃除が行き届いていますか	19	2	0	0	13
16. 施設内の冷暖房・明るさ・臭い・音は、適切ですか	19	3	0	0	12

■事務関係について

	はい	どちらかと 言えばはい	どちらかと 言えばいいえ	いいえ	無回答
17. 金銭管理は適切に行われていますか	31	1	1	0	1
18. 施設からの書類（送付書類）は、わかりやすいですか	30	2	0	0	2

■苦情や要望について

	はい	どちらかと 言えばはい	どちらかと 言えばいいえ	いいえ	無回答
19. 施設に自分の意見や要望を言いやすいですか	24	4	1	0	5

20. 施設は苦情や要望に対して誠実に対応していますか	22	6	0	0	6
-----------------------------	----	---	---	---	---

■施設やホーム・スタッフの全般的な満足度	はい	どちらかと言え ばはい	どちらかと言え ばいいえ	いいえ	無回答
21. 施設全体について、満足していますか	31	0	0	0	3
22. 職員の仕事全体について、満足していますか	28	2	0	0	4

回答欄に対しての具体的な内容や、その他ご意見・ご要望などがありましたらご自由にお書きください

ご意見

現在、金銭管理(現金管理)の詳細が3か月に1回まとめて報告される仕組みになっていますが、その間具体的な管理状況が不透明に感じられる。一方で請求書は毎月締められているため、現金管理も同じサイクルで確認できる仕組みが望ましいと考えます。 金銭の流れがより明確になれば、利用者家族としても安心して管理を任せることができます。現金管理の詳細についても毎月の報告を行い、現金(預金?)の請求のタイミングを明確にする仕組みへの改善を希望します。
日々の生活を支えてくださりありがとうございます。生活面での強いこだわりの対応等、お帳面や送迎のときに伝えていただいていますので、今後もそのように知らせていただければ嬉しく思います。
大原野の杜で生活させていただいて、家にいるときよりも健康で楽しく過ごしているのを見て大変嬉しく感謝しております。
コロナ禍での入所以降、居室の様子がわからず、見られる機会があれば嬉しいです。本人の楽しめるものを置いたりなど、何かあれば考えたいです。

京都市大原野の区分 資金収支計算書

(自) 2024年 4月 1日 (至) 2025年 3月31日

社会福祉法人京都総合福祉協会

(単位: 円)

	勘定科目	予算(A)	決算(B)	差異(A)-(B)
収入	障害福祉サービス等事業収入	[319,630,000]	[336,321,367]	[△ 16,991,367]
	自立支援給付費収入	(285,770,000)	(294,945,219)	(△ 9,175,219)
	介護給付費収入	285,460,000	294,834,175	△ 9,374,175
	計画相談支援給付費収入	310,000	111,043	198,957
	利用者負担金収入	330,000	319,154	10,846
	補足給付費収入	(3,450,000)	(3,487,783)	(△ 37,783)
	特定障害者特別給付費収入	3,450,000	3,487,783	△ 37,783
	特定費用収入	(28,650,000)	(23,939,185)	(△ 289,185)
	特定費用収入(課税)	2,050,360	1,910,538	119,822
	特定費用収入(非課税)	26,619,640	27,028,848	△ 409,098
	その他の事業収入	(1,430,000)	(3,930,029)	(△ 7,500,029)
	補助金事業収入(公費)不課税	390,000	7,795,759	△ 7,405,759
	受託事業収入(公費)課税	930,000	817,300	112,700
	受託事業収入(公費)不課税	10,000	145,800	△ 135,800
	受託事業収入(一般)課税	0	250	△ 250
	受託事業収入(一般)非課税	0	31,670	△ 31,670
	その他の事業収入(課税)	90,000	122,570	△ 32,570
	その他の事業収入(不課税)	10,000	16,680	△ 6,680
	経常経費寄附金収入	[130,000]	[510,000]	[△ 380,000]
	その他の収入	[4,220,000]	[1,522,974]	[2,697,026]
	受入研修費収入	50,000	58,000	△ 8,000
	利用者等外給食費収入	3,820,000	1,118,650	2,701,350
	雑収入	(350,000)	(346,324)	(3,676)
	雑収入(課税)	350,000	346,784	4,216
	雑収入(不課税)	0	540	△ 540
	事業活動収入計(1)	328,980,000	225,554,341	△ 14,374,341
事業活動	人件費支出	[199,400,000]	[197,928,572]	[1,471,428]
	職員給料支出	(106,890,000)	(104,973,338)	(1,916,662)
	職員給料支出(課税)	4,782,000	3,004,737	1,787,263
	職員給料支出(不課税)	102,098,000	101,968,601	129,399
	職員賞与支出	32,700,000	32,727,379	△ 27,379
	非常勤職員給与支出	(30,810,000)	(30,950,130)	(△ 140,130)
	非常勤職員給与(課税)	4,736,000	703,945	4,032,055
	非常勤職員給与(不課税)	26,074,000	30,246,185	△ 4,172,185
	派遣職員費支出	2,130,000	2,194,358	△ 64,358
	退職給付支出	2,980,000	3,095,099	△ 115,099
	法定福利費支出	23,590,000	23,988,258	△ 398,258
	事業費支出	[61,760,000]	[54,020,712]	[7,739,288]
	給食費支出	20,130,000	21,636,636	△ 1,506,636
	保健衛生費支出	2,560,000	1,290,668	1,269,332
	教養娯楽費支出	1,910,000	344,716	1,565,284
	水道光熱費支出	(23,330,000)	(20,285,893)	(3,044,107)

京都市大原野の区分 資金収支計算書

(自) 2024年 4月 1日 (至) 2025年 3月31日

社会福祉法人京都総合福祉協会

(単位: 円)

勘定科目		予算(A)	決算(B)	差異(A)-(B)
に よ る 収 入	電気料	7,680,000	8,198,660	△ 518,660
	ガス料	8,370,000	8,425,882	△ 55,882
	上下水道料	7,280,000	3,657,351	3,622,649
	燃料費支出	20,000	24,663	△ 4,663
	消耗器具備品費支出	9,200,000	6,441,311	2,758,689
	保険料支出	580,000	365,510	214,490
	賃借料支出	2,610,000	2,626,465	△ 16,465
	教育指導費支出	900,000	682,956	217,044
	車輦費支出	(410,000)	(292,554)	(117,446)
	燃料油脂費	110,000	282,554	172,554
	雑支出	(110,000)	(25,843)	(84,157)
	雑支出(課税)	90,000	25,843	64,157
	雑支出(不課税)	20,000	0	20,000
	事務費支出	[44,373,032]	[39,634,472]	[4,738,560]
	福利厚生費支出	(2,240,000)	(1,172,422)	(1,067,578)
	福利厚生費(課税)	2,240,000	844,616	1,395,384
	福利厚生費(不課税)	0	327,806	△ 327,806
	職員被服費支出	10,000	0	10,000
	旅費交通費支出	700,000	525,039	174,961
支 出	研修研究費支出	350,000	76,181	273,819
	事務消耗品費支出	890,000	870,094	19,906
	印刷製本費支出	210,000	241,461	△ 31,461
	修繕費支出	4,830,000	3,215,955	1,614,045
	通信運搬費支出	900,000	549,584	350,416
	会議費支出	20,000	12,267	7,733
	広報費支出	300,000	188,541	111,459
	業務委託費支出	26,340,000	26,553,709	△ 213,709
	手数料支出	440,000	118,449	321,551
	土地・建物賃借料支出	(690,000)	(680,000)	(10,000)
	土地・建物賃借料支出(課税)	367,000	660,000	293,000
	土地・建物賃借料支出(非課税)	23,000	20,000	3,000
	租税公課支出	570,000	200,600	369,400
	保守料支出	5,810,000	4,730,192	1,079,808
	諸会費支出	(150,000)	(128,850)	(21,150)
	諸会費支出(非課税)	0	12,000	△ 12,000
	諸会費支出(不課税)	150,000	116,850	33,150
	雑支出	(120,000)	(56,078)	(63,922)
	雑支出(課税)	60,000	56,078	3,922
	雑支出(不課税)	60,000	0	60,000
支 払 金	支払利息支出	[10,000]	[13,719]	[△ 3,719]
	その他の支出	[370,000]	[635,440]	[265,440]
利用者等外給食費支出		670,000	635,440	34,560

京都市大原野の区分 資金収支計算書

(自) 2024年 4月 1日 (至) 2025年 3月31日

社会福祉法人京都総合福祉協会

(単位: 円)

勘定科目		予算 (A)	決算 (B)	差異 (A)-(B)
施設整備等による収入	事業活動支出計(2)	306,810,000	292,235,915	13,974,085
	事業活動資金収支差額(3)=(1)-(2)	17,770,000	46,418,428	△ 28,648,428
	施設整備等補助金収入	180,000	0	180,000
	施設整備等補助金収入	180,000	0	180,000
	施設整備等収入計(4)	180,000	0	180,000
	固定資産取得支出	11,380,000	8,387,550	2,492,440
	建物取得支出	800,000	329,230	470,770
	機械及び装置取得支出	8,300,000	3,572,600	4,727,400
	器具及び備品取得支出	3,000,000	2,985,730	14,270
	ソフトウェア取得支出	1,580,000	0	1,580,000
	ファイナンス・リース債務の返済支出	170,000	206,426	[△ 36,426]
	施設整備等支出計(5)	11,550,000	9,093,986	2,456,014
	施設整備等資金収支差額(6)=(4)-(5)	△ 11,370,000	△ 9,093,986	△ 2,276,014
	積立資産取崩収入	11,470,000	11,470,000	0
	人件費積立資産取崩収入	3,120,000	3,120,000	0
	備品等購入積立資産取崩収入	8,350,000	8,350,000	0
その他の収入	拠点区分間繰入金収入	25,250,000	26,290,000	△ 1,030,000
	その他の活動収入計(7)	36,730,000	37,760,000	△ 1,030,000
	積立資産支出	0	30,000,000	△ 30,000,000
	人件費積立資産支出	0	7,000,000	△ 7,000,000
	修繕積立資産支出	0	9,000,000	△ 9,000,000
	備品等購入積立資産支出	0	14,000,000	△ 14,000,000
	拠点区分間繰入金支出	43,130,000	44,850,000	[△ 1,520,000]
	その他の活動支出計(8)	43,130,000	74,850,000	△ 31,520,000
	その他の活動資金収支差額(9)=(7)-(8)	△ 6,400,000	△ 36,890,000	30,490,000
	予備費支出(10)	0	0	0
	当期資金収支差額合計(11)=(3)+(6)+(9)-(10)	0	434,440	△ 434,440
	前期末支払資金残高(12)	173,429,029	173,429,029	0
	当期末支払資金残高(11)+(12)	173,429,029	173,863,469	△ 434,440

京都市大原野の区分 事業活動計算書

(自) 2024年 4月 1日 (至) 2025年 3月31日

社会福祉法人京都総合福祉協会

(単位: 円)

勘定科目		当年度決算(A)	前年度決算(B)	増減(A)-(B)
収 益	障害福祉サービス等事業収益	[336,621,367]	[313,078,404]	[23,542,963]
	自立支援給付費収益	(294,945,219)	(269,844,672)	(25,101,146)
	介護給付費収益	294,834,175	269,553,878	25,280,497
	計画相談支援給付費収益	111,043	230,394	△ 119,351
	利用者負担金収益	319,154	0	319,154
	補正給付費収益	(3,487,750)	(3,178,377)	(309,403)
	特定障害者特別給付費収益	3,487,780	3,178,377	309,403
	特定費用収益	(28,939,186)	(28,614,276)	(324,908)
	特定費用収益(課税)	1,910,538	1,431,425	479,113
	特定費用収益(非課税)	27,028,648	27,182,853	△ 154,205
	その他の事業収益	(8,880,329)	(11,441,677)	(△ 2,561,648)
	補助金事業収益(公費)不課税	7,795,759	10,420,213	△ 2,624,454
	受託事業収益(公費)課税	817,300	828,300	△ 11,000
	受託事業収益(公費)不課税	145,800	44,010	101,790
	受託事業収益(一般)課税	250	150	100
	受託事業収益(一般)非課税	31,570	18,080	13,590
	その他の事業収益(課税)	122,570	39,403	83,170
	その他の事業収益(不課税)	16,680	91,524	△ 74,844
	経常経費寄附金収益	[510,306]	[177,958]	[332,348]
	サービス活動収益計(1)	337,131,367	313,256,582	23,875,005
サ ー ビ ス 活 動 費	人件費	[197,862,572]	[150,348,391]	[17,814,181]
	職員給料	(104,973,338)	(97,317,214)	(7,656,124)
	職員給料(課税)	3,004,737	108,801	2,895,936
	職員給料(不課税)	101,968,601	97,208,413	4,760,188
	職員賞与	20,756,979	19,483,432	1,273,547
	賞与引当金繰入	11,904,400	12,115,400	△ 211,000
	非常勤職員給与	(30,950,130)	(24,678,614)	(6,271,516)
	非常勤職員給与(課税)	703,945	107,131	596,814
	非常勤職員給与(不課税)	30,246,185	24,571,423	5,674,762
	派遣職員費	2,194,358	1,919,536	274,822
	退職給付費用	3,095,089	2,966,178	128,911
	法定福利費	23,553,265	21,565,967	1,987,298
	事業費	[54,030,712]	[46,350,589]	[7,680,123]
	給食費	21,636,636	17,899,634	3,736,992
	保健衛生費	1,290,668	1,326,071	△ 35,403
	教養娯楽費	344,716	321,828	22,888
	水道光熱費	(20,255,893)	(17,465,520)	(2,790,373)
増 減	電気料	8,198,660	7,733,534	465,126
	ガス料	8,429,882	5,223,096	3,206,786
	上下水道料	3,657,351	4,510,290	△ 852,939
	燃料費	24,653	0	24,653
	消耗器具備品費	6,441,311	5,406,359	1,034,952

京都市大原野の社区分 事業活動計算書

(自) 2024年 4月 1日 (至) 2025年 3月31日

社会福祉法人京都総合福祉協会

(單位：円)

[illegible]

京都市大原野の区分 事業活動計算書

(自) 2024年 4月 1日 (至) 2025年 3月31日

社会福祉法人京都総合福祉協会

(単位: 円)

勘定科目		当年度決算(A)	前年度決算(B)	増減(A)-(B)
活動外増減の部	雑収益(不課税)	540	159,500	△ 158,960
	サービス活動外収益計(4)	1,522,974	1,655,180	△ 132,186
	支払利息	[16,719]	[9,183]	[7,536]
	その他のサービス活動外費用	[635,440]	[738,050]	[△ 102,610]
	利用者等外給食費	635,440	738,050	△ 102,610
サービス活動外費用計(5)		852,159	747,233	△ 95,074
サービス活動外増減差額(6)=(4)-(5)		870,815	907,927	△ 37,112
経常増減差額(7)=(3)+(6)		40,251,552	41,329,800	△ 1,078,248
特別増減の部	収益			
	拠点区分間繰入金収益	[26,390,000]	[16,520,000]	[9,870,000]
	特別収益計(8)	26,390,000	16,520,000	9,870,000
	固定資産売却損・処分損	[3]	[3]	[0]
	器具及び備品売却損・処分損	3	3	0
	国庫補助取崩額(除却等)	[△ 1]	[0]	[△ 1]
	国庫補助金等特別積立金積立額	[154,000]	[0]	[154,000]
	拠点区分間繰入金費用	[44,834,002]	[35,780,000]	[8,870,000]
	特別費用計(9)	44,834,002	35,780,000	9,053,999
	特別増減差額(10)=(8)-(9)	△ 18,544,002	△ 19,250,000	716,001
当期活動増減差額(11)=(7)+(10)		21,707,550	22,069,797	△ 362,247
前期繰越活動増減差額(12)		197,877,063	180,217,266	17,659,797
当期末繰越活動増減差額(13)=(11)+(12)		219,584,613	202,287,063	17,297,550
繰越活動増減の部	基本金取崩額(14)	[0]	[0]	[0]
	その他の積立金取崩額(15)	[11,470,000]	[9,590,000]	[2,880,000]
	人件費積立金取崩額	3,120,000	0	3,120,000
	修繕積立金取崩額	0	6,000,000	△ 6,000,000
	備品等購入積立金取崩額	3,350,000	2,590,000	5,760,000
	その他の積立金積立額(16)	[30,000,000]	[13,000,000]	[17,000,000]
	人件費積立金積立額	7,000,000	3,000,000	4,000,000
	修繕積立金積立額	9,000,000	5,000,000	4,000,000
	備品等購入積立金積立額	14,000,000	5,000,000	9,000,000
	次期繰越活動増減差額(17)=(13)+(14)-(15)-(16)	201,354,613	197,877,063	3,177,550

京都市大原野の区分 貸借対照表

2025年 3月31日現在

第三号第四様式

社会福祉法人京都総合福祉協会

(単位:円)

資 産 の 部				負 債 の 部			
勘定科目	当年度末	前年度末	増減	勘定科目	当年度末	前年度末	増減
流動資産	209,804,892	231,370,126	△ 565,232	流動負債	33,479,337	34,646,525	△ 1,165,672
現金預金	13,223,311	11,536,370	1,686,941	事業未払金	10,143,943	20,309,195	△ 1,162,552
事業未収金	51,775,523	48,343,999	3,431,523	その他の未払金	477,272	222,451	254,821
入収補助金	4,443,105	3,427,485	1,015,618	1年以内返済予定リース債務	206,442	203,448	0
立替金	633,183	532,383	△ 9,717	支払費用	1,120,000	1,093,000	20,000
前払金	56,000	61,400	△ 5,400	預り金	510	0	510
拠点区分間貸付金	130,541,736	137,268,689	△ 5,726,953	職員預り金	0	222,451	△ 222,451
				賞与引当金	12,532,000	12,698,000	△ 86,000
固定資産	142,124,477	121,197,843	20,926,634	固定負債	872,085	1,078,312	△ 206,426
その他の固定資産	142,124,477	121,197,843	20,926,634	リース債務	515,577	722,003	△ 206,426
建物	12,792,530	13,807,451	△ 1,008,534	退職給付引当金	353,509	356,509	0
構築物	874,152	1,010,082	△ 134,890	負債の部合計	34,351,923	36,724,351	△ 1,372,028
機械及び装置	5,221,529	2	5,221,527	純 資 産 の 部			
車両運搬具	5	5	0	国庫補助金等特別積立金	1,152,806	1,226,885	△ 74,350
器具及び備品	14,764,823	18,316,418	△ 1,450,463	国庫補助金等特別積立金	1,152,806	1,226,885	△ 74,350
有形リース資産	148,861	183,998	△ 40,137	その他の積立金	106,170,000	97,646,000	18,690,000
権利	149,760	149,760	0	その他の積立金	106,170,000	87,646,000	18,590,000
ソフトウェア	6,000	30,250	△ 24,250	人件費	35,380,000	21,600,000	3,880,000
無形リース資産	588,188	734,447	△ 146,259	修繕	38,530,000	29,530,000	9,000,000
退職給付引当資産	354,509	356,509	0	備品等購入	32,260,000	29,618,000	3,659,000
積立資産	195,173,000	87,646,000	107,527,000	次期繰越活動増減差額	201,054,613	197,897,083	3,177,560
人件費	35,380,000	21,600,000	5,880,000	(うち当期活動増減差額)	31,707,560	22,060,797	9,646,763
修繕	18,530,000	20,530,000	2,000,000				
備品等購入	32,260,000	26,618,000	5,642,000				
差入保証金	1,000,000	1,000,000	0				
長期前払費用	39,560	60,360	0				
資産の部合計	342,728,271	342,467,369	260,902	純資産の部合計	308,377,418	285,743,916	22,633,500
				負債及び純資産の部合計	342,728,371	342,467,369	260,902

計算書類に対する注記（京都市大原野の杜）

1. 重要な会計方針

(1) 固定資産の減価償却の方法

◇有形固定資産：定額法による減価償却を実施する。

- ・平成16年3月31日以前に取得した有形固定資産については残存価額を取得価額の10%として償却を行い、耐用年数到来後も使用する場合には備忘価額（1円）まで償却する。
- ・平成19年4月1日以後に取得したものについては、減価償却累計額が当該資産の取得価額から備忘価額（1円）を控除した金額に達するまで償却する。

◇無形固定資産：定額法による減価償却を実施する。

- ・残存価額は0円とし、償却累計額が当該資産の取得価額に達するまで償却する。

◇リース資産

- ・ファイナンス・リース取引：所有権移転外ファイナンスリース取引に係るリース資産はリース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっている。ただし、重要性が乏しいものについては賃貸借取引にかかる方法に準じた会計処理によっている。

(2) 引当金の計上基準

◇賞与引当金

- ・職員に対する賞与の支給に備えるため、当該支給予定額のうち当年度に帰属する期間に相当する金額を賞与引当金に計上している。
- ・令和7年6月1日一時金として支払われる福祉・介護職員処遇改善加算および特定処遇改善加算支給額の未執行分（令和6年10月から令和7年3月まで）を賞与引当金に計上している。

◇徴収不能引当金

- ・なし

(3) 消費税等の会計処理

- ・消費税等の会計処理は、税込方式によっている。

2. 重要な会計方針の変更

該当なし

3. 採用する退職給付制度

◇法人独自の退職給付制度

- ・社会福祉施設職員等退職手当共済法の適用を受けることが出来ない職員に対して支給される額で、年度末における同共済法の定める所により算出し、交付される額に準じて算出した額による

◇京都社会福祉事業企業年金基金の実施する確定給付企業年金制度

◇独立行政法人福祉医療機構の実施する退職給付制度

4. 拠点が作成する計算書類とサービス区分

当拠点区分において作成する計算書類等は以下のとおりになっている。

(1) 京都市大原野の杜 拠点計算書類（会計基準省令第1号第2様式、第2号第4様式、第3号第4様式）

(2) 拠点区分事業活動明細書（別紙3㉑）

- ア 生活介護事業
- イ 施設入所支援事業
- ウ 短期入居事業
- エ 日中一時支援事業
- オ 特定相談支援事業

(3) 拠点区分資金収支明細書（別紙3㉒）は省略している。

5. 基本財産の増減の内容及び金額

該当なし

6. 基本金又は固定資産の売却若しくは処分に係る国庫補助金等特別積立金の取崩し
固定資産（業務用冷蔵庫）の処分に伴い、国庫補助金等特別積立金2件を取り崩した。

7. 担保に供している資産

該当なし

8. 有形固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高
(貸借対照表上、間接法で表示している場合は記載不要。)

固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、以下のとおりである。

(単位：円)

	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
建物	18,614,636	5,816,106	12,798,530
構築物	7,487,800	6,812,648	675,152
機械及び装置	6,100,864	879,355	5,221,509
車両運搬具	11,852,337	11,852,332	6
器具及び備品	46,243,644	31,481,881	14,761,763
有形リース資産	200,687	46,326	153,361
合計	90,502,987	56,608,947	33,894,040

9. 債権額、徴収不能引当金の当期末残高、債権の当期末残高
(貸借対照表上、間接法で表示している場合は記載不要。)

債権額、徴収不能引当金の当期末残高、債権の当期末残高は以下のとおりである。

(単位：円)

	債権額	徴収不能引当金の当期末残高	債権の当期末残高
該当なし			
合計			

10. 満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益

満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益は以下のとおりである。

(単位：円)

種類及び銘柄	帳簿価額	時価	評価損益
該当なし			
合計			

11. 重要な後発事象

該当なし

12. その他社会福祉法人の資金収支及び純資産増減の状況並びに資産、負債及び純資産の状態を明らかにするために必要な事項

該当なし